作物名：ねぎ
病害虫名：白絹病（病原： *Sclerotium rolfsii*）

１　被害の特徴と診断のポイント

・ 糸状菌（カビ）による病害で、地際部に白色の菌糸が伸張し（写真１）、後に淡褐色のナタネ種子状の菌核を多数形成する（写真２）。多発時にはネギの軟白部が腐敗し、下葉から黄化・萎凋する。

写真１　地際部の菌糸と菌核

２　伝染源・伝染方法

・ 土中に埋没した菌糸や菌核が伝染源となる。
・ 多犯性で、ウリ類、トマト、ナス、キクなどを侵す。

３　発病しやすい条件

・ 菌糸の発育温度は 13～38℃で、適温は 32℃である。
・ 高温で土壌が多湿のときに発生しやすいため、夏期に降雨が多いと多発しやすい。

写真２　菌核（ナタネ種子状）

４　防除方法

・ 罹病株は、菌核を多数形成する前にほ場外に持ち出して適切に処分する。
・ 発生初期に農薬を株元に灌注または散布する。
・ 菌核は３～４か月の湛水条件で死滅するため、田畑輪換は有効である。
・ 多量の生わら等の未熟有機物の施用は、病原菌が繁殖して多発しやすいので避ける。

５　出典

（１）　参考文献

・ 日本植物病害大事典（全国農村教育協会）
・ 農業総覧 病害虫防除・資材編 第４巻（社団法人 農山漁村文化協会）

（２）　写真

・ 宮城県病害虫防除所撮影

（令和５年９月改訂）